

1980年代から収蔵資料管理・顧客管理に関わる情報システムの導入が進んだ図書館は、他の文化資源に比べてICT化が進んでいるということが出来ます。

一方、付加的な機能が次々と追加されパッケージ化された結果、図書館情報システムのコアが何なのか必ずしも明らかではなくなり、システム調達方法や調達コストについてもユーザーとしての図書館がイニシャティブを発揮できなくなっているという問題があります。

さらにICTの進展に伴い、図書館が提供すべき資料は印刷物を核とした収蔵資料に留まることなく、Webを介して獲得される情報や、画像・映像・音声・書影等を含むデジタルアーカイブ、データベース、電子書籍等その可能性を広げています。そうした状況にあって、公共図書館は地域社会の情報拠点として人々にとってより多様な情報の入り口となるとともに、さらには、人々がいきいきと知り、編集し、表現し、その知を蓄積するための情報基盤、地域の知の共有地（コモンズ）を目指したいものです。

そこで、これからの図書館の情報基盤に関わる各分野で先進的な取組みを進めるとともに、客観的なご助言をいただける皆様にお集まりいただき「これからの図書館の情報基盤」に向けた課題の整理とビジョンを語っていただきます。

これからの図書館の情報基盤 地域のデジタルコモンズを射程に

信州発
これからの図書館フォーラム⑤

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

日時

平成28年11月1日（火）13:00—16:30
（パネル終了後意見交換会）

場所

松本市中央図書館 3階（松本市蟻ヶ崎2-4-40）

パネリスト（予定）

吉本 龍司氏

（株式会社カーリル代表取締役）

藤田 方江氏

（株式会社カーリル、アカデミック・リソース・ガイド株式会社ディレクター）

中村 佳史氏

（HUMIコンサルティング・NPO法人連想出版）

岡本 明氏

（株式会社寿限無・NPO知的資源イニシャティブ）

花田 一郎氏

（大日本印刷株式会社hontoビジネス本部）

コーディネーター

平賀 研也

（県立長野図書館長）

申込

「所属・職名・氏名・連絡先」を明記して県立長野図書館あてに電子メール、又はFAXで10月27日（木）までにお申込みください。